# TRAVEL

太平洋に沈む夕日

## モーターホームでアメリカ横断21日間の旅（1）

## ハプニングを楽しむ旅の始まり

初日の太平洋に面したRVパークでの記念写真

◆電子新聞「週刊NY生活デジタル版」www.nyseikatsu.comの画面でこの写真をクリックするとスライド・ショーになります。

ロサンゼルス国際空港に隣接して太平洋が広がるビーチがある一隅にRV（モーターホーム）パークがある。僕らが初日に泊まる場所だ。これから大陸を横断しいずれは大西洋を見るだろうから、西海岸から東海岸へのスタート地点としてはふさわしい。これは今年の4月にロサンゼルスからニューヨークまで21日間をモーターホーム（キャンピングカー）で横断した旅の話です。

**＊ニューメキシコ4月26日午後7時**

人生に転機があるように旅にも転機がやってくる。早朝RVパークを出発した僕らは、ホワイトサンズ国定記念物を訪れたあと、4時間かけてカールスバッド洞窟群国立公園に午後5時半に到着。しかし、ビジターセンターはすでに閉まって見学ができない。がっかりしながら次の目的地テキサスを目指し夕暮れ迫るハイウエーを80マイルで飛ばす。ナビでは到着が午前2時になっている。疲れと空腹感で車内が沈んだ空気になりそうなとき、突然リーダーの湯川さんが関西弁のノンビリした声で「夜中に着くのも疲れるし、この辺りにRVパークかモーテルないですか？」。それからの僕らはナビと地図を頼りに「この先10マイル行った町にモーテルがある！」、「いや3マイル戻ればRVパークがあるようや！」など、待ってましたとばかりに急に車内が活気づく。（この間も車は走っている）。いろいろ意見が出たがどうするか決まらないでいると、湯川さんが発した「ほな、さっきのカールズバッドに戻りましょか」。その時点ですでに60マイル走っていたが戻ることにした。予定はあくまでもアバウト、その時々に合わせ対処し決めていくと当初から決めていたが、この瞬間「本当の僕らの旅」が始まった。それは旅がスタートして9日目のこと。

今回の旅をスタートする時点で決まっていたのは、ロサンゼルスからニューヨークまで「モーターホーム」で21日間かけて旅をする。僕が参加するにあたり（あつかましくも）条件を伝えたのは、ガイドやエスコートではないこと。日本から来る彼らに「旅」をしてもらいたいので、行き先を決めるのもモーターホームの操作も彼らにやってもらい、ニューヨークに着いた時は「自分たちがモーターホームの旅をしたんだ」という達成感を感じてもらうのがいいな、と考えていた。

旅にはいろいろなカタチがあるが、旅をする人たちは大きく分けると「トラベラーズ」と「ツーリスト」ではないだろうか。ツーリストは観光客といえるだろう。基本的にあらかじめ決めた（決まった）通りの予定で周る、どちらかと言えば受動的な旅をする人たち。トラベラーズは、予定を決めていても旅をしながらその時の状況に合わせて変え、知らないことにもチャレンジしていく人たちといえる。今回は「トラベラーズ」の生き方に徹して人生を生き抜いてきた人たちが中心にいた。この旅で周る場所、やること、また泊まる所も彼らの主導で決めてもらう。また、そういう旅をすることが彼らの唯一の楽しみ、というか目的だったと思う。日本にもまだまだこのようなスーパー・シニアたちがいることを3週間一緒にいて実感し、旅を楽しむ原点を再認識させられる旅になった。（続く）

（スチュワート姫野／トラベルライター、トラベルデポUSA）

RVパークのサイト（水道のホースを接続している）

それと13日目（4月30日）の夜にナッシュビルのグランド・オープリー・ハウスで毎週行われるカントリー&ウエスタンのラジオ放送の実況を観ることだけだった。「アメリカ横断」、かつては若者がグレイハウンドやアムトラックを利用して横断をしたものだ。栄光を失いつつある今のアメリカではあるが、この国の広い大地を横断することはやはり大きなロマンを感じるのは今も変わらない。

今回旅をするのは関西の湯川夫婦（75、64歳）、友人の野崎父娘（73、34歳）そして出発前に参加が決まった西川さん（男性71歳）の5人。みんな運転はできるけれどもとにかく長い距離なのでドライバーアシストを希望され、ロサンゼルスから僕が参加することになった。僕が参加するにあたり（あつかましくも）条件を伝えたのは、ガイドやエスコートではないこと。日本から来る彼らに「旅」をしてもらいたいので、行き先を決めるのもモーターホームの操作も彼らにやってもらい、ニューヨークに着いた時は「自分たちがモーターホームの旅をしたんだ」という達成感を感じてもらうのがいいな、と考えていた。

旅にはいろいろなカタチがあるが、旅をする人たちは大きく分けると「トラベラーズ」と「ツーリスト」ではないだろうか。ツーリストは観光客といえるだろう。基本的にあらかじめ決めた（決まった）通りの予定で周る、どちらかと言えば受動的な旅をする人たち。トラベラーズは、予定を決めていても旅をしながらその時の状況に合わせて変え、知らないことにもチャレンジしていく人たちといえる。今回は「トラベラーズ」の生き方に徹して人生を生き抜いてきた人たちが中心にいた。この旅で周る場所、やること、また泊まる所も彼らの主導で決めてもらう。また、そういう旅をすることが彼らの唯一の楽しみ、というか目的だったと思う。日本にもまだまだこのようなスーパー・シニアたちがいることを3週間一緒にいて実感し、旅を楽しむ原点を再認識させられる旅になった。（続く）

（スチュワート姫野／トラベルライター、トラベルデポUSA）

栗原祐司のミュージアム・フリークのひとりごと　第48回

## 共通ガイドラインの策定

2020年の東京オリンピック開催が決まり、日本国内ではさまざまな検討が始められていますが、そのひとつに多言語対応の改善・強化という課題があります。もとより観光立国実現のためには訪日外国人旅行者の快適・円滑な移動・滞在のための環境整備を図り、日本に来てよかったと満足してもらい、リピーターとなってもらうことが重要であることは言うまでもありません。

このため10月30日、国土交通省で「観光立国実現に向けた多言語対応の改善・強化のための検討会」が開催されました。これは、今年6月に観光立国推進閣僚会議において決定された「観光立国実現に向けたアクション・プログラム」に則り、美術館・博物館、自然公園、観光地、道路、公共交通機関等において、外国人目線に立った各分野に共通するガイドラインを策定して多言語対応の改善・強化を図ることを目的とした会議で、年度末までには共通ガイドライン策定を目指しています。

具体的には、日本国内の道路案内標識のなかには不適切な英文表記がずいぶん多く、たとえば国会議事堂周辺でも「国会前」が「Kokkai」、「財務省上」が「Zaimusyo ue」、「憲政記念館前」が「Kensei Kinenkan」となっているなど、単なるローマ字表記に置き換える例が少なくありません。前回紹介した平戸市内でも、「寺院と教会の見える道」の標識に「Jiin to Kyokai no Mieru Michi」という英語圏の外国人にはまったく理解できないであろうローマ字が併記されていました。これらは、1986年の標識令の改正によって、道路案内標識に表示する地名等には、原則としてローマ字を併用して表示することとされたためですが、英語表記の徹底や標準化までは実施しなかったことが不適切な表示の原因のひとつと考えられます。

今後、道路案内標識のローマ字表記を統一的に英語表記に改めるためには、英語表記（略称を含む）を標準化することが必要で、具体的には、標識令において英語表記の標準を定めることになると思われます。例えば、「○○通り」は「Ave」あるいは「St」、「Blvd」などに標準化すれば、分かりやすいでしょう。共通ガイドラインでは、少なくとも、自らの位置確認や円滑な移動のための表示に改めるとともに、外国人がその事物が何であるか正しく理解でき、その内容や背景を正しく理解できる表示にすることを求めることになると思われます。

そのほか、最近九州では韓国語や中国語の表記が多くなされるようになってきていますが、誘導表示や規制・警戒表示に関する事項については、地域特性や表示内容に応じ、日英以外の言語も併記することが必要でしょう。博物館内の説明文の英語表記にも、ネイティブから見ればおかしなものが多いという指摘を受けますが、国際社会においてさらなる改善が求められます。（文・栗原祐司／東京国立博物館幅総務部長）

12/29（日）ニューヨーク発　往復直行便航空券込み
年越しの花火大会を鑑賞する
アイスランド年末スペシャル 2泊4日
ここがおすすめ!
●レイキャビーク恒例の花火大会を眺めの良い場所で鑑賞!
●全行程日本語ガイドがご案内!●レイキャビーク市内観光、ゴールデンサークルツアー、露天風呂ブルーラグーンへの入浴プラン付き!●新鮮な魚介やラム肉を使った郷土料理が楽しめます!●オプションでオーロラツアーにご参加可能（別料金）
お得な情報が満載!
H.I.S.特製日本語ブックレットをご予約時にプレゼント
11/25（月）までの早割り価格!▶ $1750
※料金は大人2名様1室ご利用の際の1名様料金です。
ツアー代金に含まれるもの：ニューヨークからの往復航空券（エコノミークラス）、宿泊代金、行程表中全ての送迎、日本語ガイド、観光地入場料、温泉リゾートブルーラグーン入場料（1回分/タオルのレンタル料含む）、食事（朝2/昼2/夕1）、税金
H.I.S
パッケージデスク 1-888-893-6228 Mon-Fri:9:30am-6:00pm (Sat: 5:00pm)
ジャパンデスク（日本行き航空券）1-800-275-4447
his-usa.com
facebook.com/hisnyc

The Breakaway
毎週日曜日出航
12/1, 8, 15, 22, 29
ニューヨーク発バハマ、フロリダ7泊クルーズ
・ニューヨークをテーマにし、2013年4月に就航したばかりの革新的な新造船。
・総トン数14万5千6百55トン、全長325.6メートルの大型船
・マンハッタンからの出発、堅苦しさのないフリースタイル・クルージング
$409~ 1日あたり約$58
Per person/Double occupancy
近鉄インターナショナル 1-855-KIE-SHIP（543-7447）
近畿日本ツーリスト 米国現地法人 KIE MILLENNIUM CRUISES